



日野原重明記念

「新老人の会」東京 会報

Keep on going!

Vol.7/No.1

2025.1

「御跡を慕いて我は行く」

医療法人翠清会会長 翠清会梶川病院名誉院長
日野原重明記念「新老人の会」東京 会員

梶川 博



私は一九三九年一月、広島県佐伯郡沖村(現・江田島市)に生まれ、沖村小学校、広島市内の修道中学校・高等学校を経て、一九六三年に京都大学医学部を卒業しました。当時は卒業インターン制度があり、私は聖路加国際病院で十九大学から二十四名の仲間と共に一年間研修を行いました。その中でも特に心に残るのは、循環器内科で日野原重明先生の薫陶を受けたことです。あるとき「質問に答えられないインターンがいる」と噂が立った際、先生は「いや、梶川君は急性期心筋梗塞のECG変化について、ST上昇と異常Q波を的確に診断していたよ」と擁護してくださいました。若き日に頂いたこのような温かい励ましは、今でも私の心に深く刻まれていま

す。その後、京都大学、広島大学、大阪医科大学で外科および脳神経外科の研鑽を積み、多くの恩師や仲間とのご縁を大切にし、一九八〇年四月、広島市内で脳疾患専門病院を開院し、以来四十五年間地域医療に従事してまいりました。

二〇〇一年十一月、日野原先生が学会で広島にお越しになり、九十歳の誕生日を迎えられた先生と会食を共にする機会に恵まれました。

高齢者の生き方上手
日野原さん11日講演
広島

七十五歳を過ぎても冒險心を持って生きる人たちの集まり「新老人の会」を提唱している聖路加国際病院理事長の日野原重明さん(左)が、十一日後楽時半から、広島市中区のリーガロイヤルホテルで「いのちの輝き」と題して講演する。日野原さんは、一人でも

多くの高齢者が介護される側ではなく、生産人口の一員であり続けよう、二〇〇〇年九月「新老人の会」を結成。講演は同日、中国支部の設立総会が開かれるのを記念して開催される。

日野原さんの講演は参加費千円。新老人の会中国支部事務局 ☎082(251)6411 梶川病院、同支部世話人代表岩森茂さん ☎082(251)5954。



2002年9月11日設立
広島での中国支部設
記念フォーラムで講
される日野原先生(90歳)

た。先生のお話は堅苦しい説教ではなく、人生を楽しく、豊かに生きるための温かいお話で、以来ご来広のたびに珠玉の言葉を伺うことができました。一年に何冊もの著書を上梓され、月に三回は徹夜をされるとのこと、「夜十時から翌朝の六時までで二十五枚くらい書けるよ」とのさりげないお言葉には、ただただ驚嘆と感銘を深く受けました。

先生が創設された「新老人の会」において、私も微力ながら元中国支部の運営に携わらせていただきました。会の理念は「愛し愛されること。何か新しいことを創めること。苦難に耐えること」であり、先生は「Vision・Venture・Victory」の教え、そして「Keep on going(進み続けること)」のメッセージを遺されました。「老人」という文言は、本来は先輩を尊ぶ言葉で、高齢者、まして後期高齢者という用語は不適切のご見解でした。先生の信念は、いわゆる「定年」や「隠退」には無縁でした。AI、ICTやスマートフォンで価値観が変化しつつある今こそ、私たちは「The New Elder Citizens」としての先生の教えを胸に、知恵を持ち寄り、社会に貢献する活動を続けていきましょう。



中村重信・梶川博/著
A5判/184ページ
2,200円(税込み)
発行:
クリエイツかもがわ

最後に、大学の同級生である中村重信君と共著した「高齢期を楽しく暮らす―高齢者を診る医師の提案」(クリエイツかもがわ、二〇二三)の最終章から、幾つかの提案を紹介いたします。

- ①「前後際断」。禅僧・道元が「前後ありと云えども、前後際断せり」(『正法眼蔵』「現成公案」巻)と説くように、前(過去)と後(未来)は別もので、過去のことにとらわれず、未来のことに思い患わないで、今を大切に生きましょう。
- ②「老いを恐れず、長寿の経験を活かす」。加齢と共に肉体的な衰えがあっても、長寿によって培われた知恵と経験は大いなる財産です。これを活かし、自らの時間を充実させ、他者に的確な助言を行いましょう。
- ③「終活」。チャイコフスキーの交響曲第六番「悲愴」のように静かに幕を閉じるも、ベートーベンの交響曲第七番のように華やかに締めくくるも、どちらも尊い生き方です。自分にふさわしい最期の選択を大切にしましょう。

講演とコンサートの集い

早乙女愛氏（映像編集者） 講演会

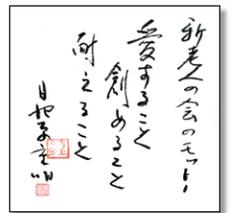
「今日という日をどう語る？未来の人たちへ伝える
命の物語」日野原重明先生の映像記録から」

二〇二四年十月六日 13時30分～16時 ホテル・ルポール麹町 参加者114名

今回の講演会は、昨今の国際情勢を踏まえて「平和」を願われた日野原先生の思いを引き継ぐという当会の思いから早乙女愛氏に講師を依頼しました。愛氏は、幼い頃から父であり作家の故早乙女勝元氏の取材に同行して、国内外の戦跡を訪ねて育たれました。



講演中の早乙女愛氏



私たちは、二〇〇八年の十二月に聖路加国際病院において収録された勝元氏による日野原先生への未発表のインタビュー映像を、この講演会で公開していただけるという幸運に巡り合いました。愛氏が読売新聞の取材のなかで、今回の講演会でインタビュー映像を初公開することを伝えられ、八月十六日の読売新聞の夕刊紙面で紹介されたのです。読売新聞で知ったという、平和を願う人たちが、戦争について語る日野原先生の映像に関心をもち多数参加され、特に若い世代の人が多くことに驚かされました。この日、二本の映像はさみながらの講演となりました。

勝元氏の日野原先生へのインタビューのきっかけは、勝元氏が中心となり設立された民立民営による「東京大空襲・戦災資料センター」に寄贈された一枚の伝単（米軍による宣伝ビラ）で、それには聖路加国際病院が描かれていました。勝元氏は、これを日野原先生に届けたいと、インタビューの機会を得られたのです。好奇心旺盛な日野原先生は、伝単を見てご自身の空襲体験を語り始め、戦時には「大東亜中央病院」

と改名されていた聖路加国際病院で負傷者の治療に当たられていたことを話されています。日野原先生は学生時代に結核に罹患されたために軍部に召集されず、医師として病院で患者の治療に当たっておられました。東京大空襲の際には、全く薬がない中で千人もの患者に、火傷の治療として新聞紙を焼いて粉にして傷に振りかける以外に何もできず死にゆく人々を看送ったと、日野原先生は苦渋の表情で話されています。先生はこの無念の思いを生涯もち続けておられたのだと思います。

その思いが聖路加国際病院の改築時に生かされて、スイスやスウェーデンなどに学び、病棟のみならず廊下やチャペルの壁の中にも酸素吸入のためのパイピング設備を施されました。それが、後の地下鉄サリン事件の際に多くの方の命を救うことに繋がりました。

あの時の日野原先生の機敏な動きは、戦時の無念さが生かされた結果だったのです。

また、日野原先生はインタビューの中で、京都大学の医学生時代に、京都大学出身の細菌学者で七三一部隊の隊長であった石井四郎氏の講義を受けたと話されています。旧日本軍が中国で行った残虐行為や捕虜をコレラやチフスなどの細菌に感染させた人体実験の映画を見せられたとも語っておられます。兵士たちが感染病にかからないためになされた研究が、戦時下では次第に国のためとの目的にかわり、知性や

歴史認識のある一般の医学生たちが、命を守ることから人を殺す人体実験を自ら始めてしまうことを目のあたりにされたのです。

これらのことから、日野原先生は「戦争はどんな人をも鬼にする」と考えられ、戦争を根底から無くす「非戦」を私たちに提言されています。戦争は、被害者の側面のみならず、加害者の側面を持つものでもあり、国家のためと目的を変えていくことで人を鬼に変えてしまいます。痛い歴史をも忘れずに振り返ること、また様々な歴史を繋げて考えることで、私たちは人の命を守り平和に生きていかなければなりません。

日野原先生や勝元氏が亡くなり、その足跡が遺された資料や記録を分析し編集して私たちに提示してくださる若い世代の愛氏の活動にあらためて感謝し、これからもますますのご活躍を祈念したいと思います。

当日お寄せいただいた寄付金二万八〇〇〇円は、日本赤十字社を通じ「令和六年能登半島地震災害義援金」へ送らせていただきました。



コンサート

植村理一氏（ヴァイオラ）と

下城瑠五子氏（ヴァイオリン）

ご夫妻による弦楽二重奏

四十分という短い時間ではありませんが、演奏の間には、二つの楽器の大きさや音色の違いについて実際に音を出しながらお話しいただくなど、興味深くまた心洗われるひと時でした。

プログラムは、

ヴァイオリンソロ 無伴奏組曲パルティータ第2番ニ短調B.W.V. 1004より

「シヤコンヌ」 J. S. バッハ作曲

ヴァイオリンソロ 無伴奏組曲パルティータ第2番ニ短調B.W.V. 1007より

プレリユード／アルマンド／コレンテ

J. S. バッハ作曲



初心者のためのスマホ講座⑦

デジタル庁デジタル推進委員
伴 克子（東京会員 福岡在住）



デジタル推進委員の伴 克子です。みなさんはスマホと脳の関係ってご存知ですか？脳外科医の内野勝行先生の『退屈ボケの処方箋脳はスマホで若返る』によると、スマホを使うことで脳は新しい刺激を受け、活性化します。シニアにとってデジタルはいいことだらけ！と書かれています。シニアのみなさんへのメッセージとして「みなさんは人類史上初めてスマホを手にしたシニアです」と。「スマホ活用10ヶ条+1」を作ってみました。一緒にやってみませんか？

第1条. スマホの基本を確認しよう

電源の入れ方、Wi-Fi接続、画面の操作方法を覚えましょう。

やってみよう まずは電源を入れたりWi-Fiをつなぐ練習をしてみましょう！

第2条. 天気やニュースをチェックしよう

日常的に役立つ情報をスマホで確認する習慣をつけます。

やってみよう 天気予報アプリやニュースアプリを開いてみましょう。

第3条. 無料通話アプリで家族や友人との連絡を

LINEで家族や友人とつながりましょう。

やってみよう 家族にメッセージを送ってみましょう！

第4条. インターネットで検索しよう

分からないことや趣味の情報を検索すると世界が広がります。

やってみよう 気になる言葉を検索してみましょう。

第5条. 写真や書類を友達に送ろう

写真や書類をLINEで共有してみましょう。

やってみよう 撮った写真を友達に送る練習をしてみましょう。

第6条. 健康管理アプリの利用

歩数計アプリを使ってみよう。

やってみよう 今日の歩数をアプリで確認しましょう。

第7条. マップアプリを使ってみよう

行きたい場所までの経路を検索し、迷わず目的地へ。

やってみよう 近所のお店を検索してルートを調べてみましょう！

第8条. 日常の予定を管理する

カレンダーアプリに予定を入力してみましょう。

やってみよう 予定を書き込んでみましょう。

第9条. 写真や動画を撮影して思い出を残す

カメラを使って大切な瞬間を記録しましょう。

やってみよう 好きな景色や家族の笑顔を撮影してみましょう。

第10条. オンライン講座や動画で学ぶ

YouTubeを見てみよう。

やってみよう 興味のある動画を探してみましょう。

第11条. スマホで楽しみを見つける

アプリや機能を活用し、自分に合った楽しみを発見！

やってみよう 新しいアプリに挑戦してみましょう。

スマホ講座を開催します。皆さまのご参加をお待ちしています。

日時：2025年1月27日（月）13:30～15:00

場所：NAKANO HAKO（東京都 中野駅南口 徒歩2分）

会費：会員 1,000円 一般 1,500円

誌上句会「トキメキ句会」

選句と鑑賞 飛鳥 蘭

俳句には「詠む」と「読む」という二つの要素があります。先ず自分の句を作る、次に他の人の作品を鑑賞する、という事で、ともに同等な両輪です。

作者は十七音を駆使して、句を仕立てます。その句をどのように読もうと読み手の自由です。作者の句意とは関係なく、読み手の知識や経験、想像力を駆使して句を鑑賞します。

今回はトキメキ句会の優等生、弘幸さんの句を揚げて鑑賞し、俳句の読み方、季語について書こうと思います。

北海道象るやうに落葉朽ち 弘幸

吹かれたり踏まれたりして、朽ちてしまった落葉、それが北海道を連想する形に見えたのでしょうか。象る、がいいですね。上京の機音高し初しぐれ 弘幸

上京（カミギョウ）は西陣織の町です。加えて、季語の時雨は、今は冬の通り雨として使われていますが、本来は、京都の時雨を言う言葉です。既に類句もあるでしょうが、一度は詠んでみたい句材です。冬天の青をそのまま海の色 弘幸

冬天、の季語はこの国の気候によって、太平洋側は晴れが多く乾燥した空、日本海側は、雪雲の覆うどんよりした空がイメージされます。揚句は前者ですね。

【次回のご案内】

締切 2月20日

兼題 梅（傍題可）他当季雑詠二句

メール投句 viridia@icloud.com 水戸緑まで

葉書投句 〒168-0006 杉並区

永福4-28-24 飛鳥蘭宛

問合せ先 03-3265-1909

小江戸川越散策

イベント報告

川越は江戸時代からの城下町、今では蔵造りの町並みなどで、「歴史と文化のまち」として年間七百万人の観光客が訪れています。

十一月七日(木)十一時、十六人が川越駅に集合、川越在住の会員で「川越蔵の会」メンバーの大家章氏の案内で、駅前から東武バス「札の辻」停留所まで乗車、散策をスタートしました。

初めの「菓子屋横丁」は、ハッカやニッキ飴などの昔の駄菓子、煎餅・饅頭など、皆さん、童心に帰ったかのように楽しめました。次に「川越まつり会館」へ。「川越まつり」は、十月の第三土・日に開催され、二日間の観光客が



七十万人を超え、山車行事は、二〇一六年に「ユネスコ無形文化遺産」に登録されています。

この日のメイン「蔵の街」は、明治二十六年の川越大火後、耐火建築である「蔵造り」を採用、今の街並みが出来上がりました。川越のランドマークの「時の鐘」は、約三九〇年もの間、時を刻み続け、「映える」撮影スポットとなっています。

「大正浪漫夢通り」と名付けられた商店街を見物しながら、旧日本酒造会社の三棟の蔵を改造した「小江戸蔵里」で遅めの昼食をいただき、自由解散しました。

その後、希望者十名ほどで「喜多院」に向かい、江戸城より移築された「家光公誕生の間」「春日の局化粧の間」などを見学、歩数は一万歩を優に超えていました。



報告 日野原重明記念「新老人の会」全国連絡会 松本集会

2024年10月26日 14時30分〜松本市アルピコプラザホテル

10月27日 13時30分〜松本市「いのちと平和の森」

参加者 9つの会から40名(内東京より17名)

26日 ①講演 菅谷昭先生(元松本市長・NPO法人「いのちと平和の森」会長)による「いのち・平和・生きがい」を磨き守る春風秋雨の旅を顧みて」と題して、聖路加国際病院での研修に始まり、信州大学での研究、チエルノブイリ医療支援、松本市長および松本大学学長と様々な分野での活動について、興味深いエピソードを交えてのご講演。



②円卓会議 小山和作先生(「新老人の会」全国連絡会代表・熊本「新老人の会」会長の司会で、各会の活動報告、抱えている問題点、取り組みについて話し合いました。来年は東京での開催と決定。昨年の全国連絡会での要望を受け、東京で作成

した「新老人の会」紹介のDVD(二十分)を上映。「新老人の会」の理念、発足当時から活動が映像とナレーションでよく分かるかと好評でした。

③夕食交流会 一年ぶりの再会に話が弾み、また新たな繋がりも生まれ、全国連絡会の意義を再確認しました。

27日 「いのちと平和の森」訪問。約四六〇平方メートルのこの森は、二〇〇九年に「新老人の会」信州支部の活動として創設、NPO法人として運営しており、日野原重明先生のオオヤマザクラ、小澤征爾氏のカエデを始め様々な樹木が植林されています。植えられている木の中から選んで寄付をする、あるいは自分で好きな木を植林しても良いとのこと。松本大学「平和創造研究会」の学生も会の趣旨に賛同して、下草を刈る作業に参加しています。

フルートの生演奏もあり、最後は皆で「ふるさと」を合唱。昼食は深志荘にて日野原先生が絶賛された信州蕎麦に舌鼓。来年も有意義な東京開催を皆の想いがひとつになりました。

ご案内

正置友子先生(絵本研究家)講演と「東京大空襲・戦災資料センター」見学会

「戦前・戦中・戦後の絵本：あの頃、こんな絵本があった」—絵本を通して、歴史に学び、未来を拓く—



日時：2025年4月5日(土) 13:00~16:00

会場：東京大空襲・戦災資料センター

参加費：1,000円(入館料込み・会員価格)

正置友子先生は、1973年に千里青山台団地で青山台文庫を始め、子どもたちに絵本を読み聴かせる活動を続けてこられました。

50歳を過ぎてイギリスに留学、ヴィクトリア時

代の絵本研究で、ローハンプトン大学大学院より博士号(PhD文学)を取得。イギリスで、初めて日本の絵本原画展を開催。その後、大阪大学大学院臨床哲学に入学、博士号(学術)を取得され、聖和大学教授を経て、現在も青山台文庫、絵本学研究所を主宰しておられます。

正置先生の長年の研究から収集された資料をもとに、歴史を振り返り、未来に向かう道筋を、共に学ぶ機会になればと思います。皆様のご参加をお待ちしています。

編集後記

新しい年を迎えましたが、戦禍のウクライナ、ガザの人々、国内の被災地の皆様には未だに厳しい寒さが襲っていることに思いを馳せ、1日も早い終息そして穏やかな日常が戻ることをお祈りいたします。

戦後80年の節目の年に当たり、戦後生まれの人が大半を占めるなか、当会の目標を再認識して活動を展開していきたいと思えます。同封のチラシにあります4月5日の「戦前・戦中・戦後の絵本：あの頃、こんな絵本があった」の催しは、「東京大空襲・戦災資料センター」の見学も兼ねています。皆様のご参加に加えて、次代を担う若い世代の方々をお誘いいただければ幸いです。

「新老人の会」東京

2024年 会員数220人(188件)
2023年 会員数225人(218件)

会員募集中!
年会費

個人・家族会員 5,000円
賛助会員 (一口) 10,000円